

# 人口減少・高齢社会におけるメモリアルデザイン構想

Memorial designed planning in terms of a population decline and an aging society.

藤澤 忠盛 1)

Tadamori Fujisawa1)

1) 昭和女子大学生活科学部環境デザイン学科

森尾 昌高 2)

Morio masataka2)

2) PARADISE GARAGE Inc.

千歳 慎 3)

Chitose macoto3)

3) 株式会社 CO 代表取締役

The way of the memorial occasion gradually are changing in the current Japanese society. For that reason, first of all, New type of application development to use in a funeral in japan. Second, Redesign of a family's Buddhist altar, the household

Shinto. Finally, this projects remodel the akasaka prince

Key Word: Application development, Redesign altar, renovation

hotel to the graveyard which is many diversity. As a result, the memorial occasion is activated more and more. It will be even more sophisticated.

## 1. 目的・背景

現在の日本社会では冠婚葬祭のあり方が徐々に変化してきている。特に都市部では顕著に結婚式や葬式、その他セレモニーのスマート・コンパクト化、低料金化が一般的となってきた。また SNS・アプリなどあらたなる情報コミュニケーションツールの台頭によって今までとは違ったコミュニケーションの取り方が社会では常識化している。サービス・料金とその質の透明化が少しずつ進んできてはいるもののまだ十分ではない。冠婚葬祭のセレモニーを SNS・アプリなどあらたなる情報コミュニケーションツールを利用したサービスを提案する。こうすることで遠方の方、所要のある方にもサービスがいきわたり、また半永久的に web 上に記憶として残ることが可能になる。その結果冠婚葬祭はさらに活性化される。セレモニー空間、墓石、仏壇、神棚や米寿・還暦のお祝い物や各種物販などのメモリアルデザインも昔ながらのものが多く、現代のスタイルに社会全体のサービスが追いついていないと言えない。現代社会に相応しいスマートでコンパクトなデザイン・空間・セレモニー提案を行うことを目的とする。

国立社会保障・人口問題研究所によると、日本の人口は 2008 年をピークに人口減少に転じ、本格的な人口減少に転じる。2010 年に 1 億 2800 万人であった日本の総人口は 2050 年には 9700 万人に減少数すると予測されている。今世紀末の 2100 年には 49500 万人と 100 年間の間に現代の 40% まで人口は急減すると推計されている。

つまり今後、高齢化率は増々上昇し、高齢社会から超高齢社会、多死社会を経て人口減少し日本全体が空洞化していくことが予想される。言い換えれば、それだけ多くの方がお亡くなりになることになる。人口減少・高齢社会におけるメモリアルデザイン構想を提案する。

## 2. アプリ「よせがき」提案



図 1：よせがきイメージ

現在では、高齢社会の為、葬儀を行っても参加する方も高齢であることや、すでに亡くなっている方も多いこと、信仰心の薄れもあり、直葬・家族葬なるコンパクトな葬儀が増えている。これは通夜や本葬を行わないものである。元来行われていた本葬や通夜をアプリ化(図 1)し行う。現在開発中のこのアプリの特徴は、1：画面中心に故人の写真を UP する。2：日本古来のよせがき風に故人に対する哀悼や追悼の思いを書き記すことが出来る。(縦書き、横書き可能) 3：書かれた文字は画面を中心に同心円状が増えていき、参加者の「言葉」や投稿した「絵の花」が咲いていくイメージである。4：葬儀のみならず結婚式、スポーツ対戦、サークル活動、ブレインストーミング、様々な趣味など「よせがき」アプリの利用範囲は幅広く活用が可能。5：他の SNS と違い、画面中心にある写真(アイコン)に対して議論・討論していることが明快にわかる点 6：PDF 化できるため、記録として残りやすい特徴をもつ。7：寄付金・ご祝儀・香典などの金銭的な記録がのこり、透明化が可能。

## 3. 仏壇・神棚のリフォーム提案

現在地方は過疎化が進み、空き家率が増加している。都内でも空き家率は上昇し、10 軒に 1 軒は空き家である。都内の空き家率は豊島区がワースト 1 位 15.8% で区内でのリノベーションや DIY などに力を入れて歯止めをかけようとする。2 位の大田区は 14.9% で空き家相談窓口を開設し空き家を利用してほ

しい人と利用したい人のマッチングを図る。新宿区・渋谷区でさえ、12%以上が空き家である。地方では、人口減少と共にさらに今後上昇するであろう。その結果、日本古来の寺や神社も檀家を失い、崩壊の危機を呈している。空き家の中には先祖代々の仏壇、神棚があり、それらが空き家問題と共に放置されると予想している。歴史や伝統をふまえた、多くの仏壇や神棚は都市部でのマンションや現在のインテリア・建築空間とは本来の役割、資質や大きさ・デザイン性が違いすぎ、そのまま配置するには違和感があると感じる人は多い。信仰心の薄れもまた原因の一つともいえるのであろう。筆者もクライアントにそのような相談を持ち掛けられた経緯を持っている。先祖代々使用してきた仏壇・神棚をスマート・コンパクトに改良することで、現代のインテリア・建築空間のデザインに相応しくリフォームする。人口減少・過疎化・空き家問題で行き場を失った仏壇・神棚の新たな姿勢を提案する。



図2 (参照 最佳仏壇店 blog) (参照 ALTRA HP)

#### 4. 新たな墓地・埋葬方法の提案

近年の新しい形の埋葬方法ではどこにでも故人の魂がいるという考え方に基づいている。それは仏教だけにとらわれない日本人の死後の考え方とも関係がある。仏教が伝わる以前からある死生観として日本人は霊魂の存在を信じている。お盆に先祖の霊が帰ってくるという考え方は日本の民俗信仰（古代神道）の考え方で仏教とは関係はない。また、お墓にも仏壇（位牌）にも遺品にもその他どこにでも故人の魂がいると考えている。このように、現在の仏教も既に日本流に解釈され、人々の生活に根づいている。現在、東京都の一般埋蔵施設の倍率は跳ね上がり、都内であれば10倍を超えることは珍しくない。また郊外でも5倍程度はあり、極めて入手困難なものと言える。お墓を作らない提案としては、いずれ土に還る素材に遺骨を混ぜてプランターや一輪差しをつくり供養する方法、コンクリートに遺骨を混ぜたオブジェを作成し、故人の好きなものや抽象的な球体など自由な形を作る方法、また遺骨をダイヤモンドにする技術や、樹木葬なども近年では人気がある。これらを供養することでお墓参りの必要がなくなる。墓地・埋葬に関する法律・条令を調査すると、「遺骨や遺灰を自宅で管理し、持ち歩くことは法律違反ではない。しかし、分骨証明書があった方がよい。」と記されている。お墓自体を作ることは法律上様々な困難があ

り、その結果お墓の購入倍率は跳ね上がっている現状がある。しかしながら仏教（寺）から離れた、御手前供養のような方法論であれば自由に新たなお墓（従来のお墓の変わり）を構築できる。たとえば青山墓地周辺の空き屋をメモリアルスペース（御手前供養スペース）にリフォームする。家を改築し、分譲マンションのようなシステムを提案する。従来のお墓ではなく、多くの方に分割し、セカンドハウスとして購入してもらおう。その中には実際に寝泊まりできるスペースもあり、家族で故人を思いすごすことも可能である。この提案により、1：空き家の再活用、2：墓地費用の軽減、3：区画倍率の軽減など多くのメリットが生まれる。敷地がもともと墓地周辺の為に違和感がなく、スムーズな移行が可能となる。先日赤坂プリンスホテルが新しく生まれ変わった。バブルの象徴で多くの方が結婚式やパーティーを開き思い出も多い都心高層ビルであった。提案として、赤坂プリンスホテルのような都心で多くの利用者が思い出を持つ場所に、図3のようなメモリアルスペース（御手前供養スペース）を構築する。数多くの部屋を間仕切りし、故人の遺骨を分散させ収納する。1・2・3Fは葬儀・法事・ご供養空間、4F以上はメモリアルスペースとする。建築物自身がメモリアルとなる究極のリノベーションとなる。



図3 赤坂プリンスメモリアルスペース構想イメージ 上部イメージは内部葬儀空間のインテリアデザイン。

参考文献：新建築 1982 6月号、丹下健三（新建築社）、地方消滅 P 1 - P 3（中央公論社）、東洋経済 8/8-15 <http://mozumiya.blog.nanto-e.com/detail-783.html> <http://item.rakuten.co.jp/altar-fujishi/alt-tsr-17w/>